



Japan Sporting Equipments Retailers Association

No.56

編集/発行:日本スポーツ用品協同組合連合会
東京都台東区浅草橋5-8-6 東京スポーツ
〒111-0053 会館 301号室
☎ 03-5829-6490 FAX 03-5829-6491
ホームページ <http://www.jsera.jp/>
E-mail jsera@jsera.jp

(2010/8~2011/7のスローガン)

スポーツ業界 南都が遷都…「50年の力」で 乗り越えよう!



『+ ¥ 1 の付加価値』を!

JSERA・日本スポーツ用品協同組合連合会

理事長 重森 仁

春本番、アスリートの声グラウンドにこだまする今日この頃、組合員はじめ、関係各位におかれましては、如何お過ごしでしょうか。たとえ、小物の発注でも声がかかれば嬉しいものです。お客様の下へ向かう足取りに軽やかさを感じるのは私だけでしょうか。

さて、2月に開催いたしました全国理事長会議に、各都道府県の理事長さん、オブザーバーの方には、お忙しい中、また雪の残る足元の悪い中、出席いただきありがとうございます。「利益率向上」をテーマにし、『正常化への挑戦』(株式会社タマス 代表取締役 山田 俊策様)の講演をベースに熱心な討議を重ねていただきました。そこから見えてきたものは、賛否を越えた地平であり、「価格競争より品質」という山田社長の熱き思いは混沌とする業界へ直球を投げ込まれたものと理解いたします。他のメーカー、他種目のメーカーの方が躊躇されている中(私に見えていないだけかもしれませんが)、一層球速を感じるものでした。もちろん、参加者から指摘された問題点、新たに判明した問題点については、タマス様、関係各位と協議は続けてまいります。

私の「組合員で良かった」と思える組合づくりは、スタートしたばかりです。その推進力は、心と体の両輪です。

その一つ、『心』、すなわちスポーツを通じての熱き思いです。サッカー、インテルの長友佑都選手の

活躍は目を見張るものがありますが、そのインテルのレオナルド監督は、長友を獲得した理由の一つに、日本人は「勤勉で、努力家である」ことを挙げています。

今の日本人を見るとかならずしも、と思いますが、少なくともそのように見られる日本人の美德を守り続けていられる大きな要因として、学校の部活動や地域のスポーツ団体の熱心な活動があると思われまます。スポーツを通じての人間形成は、今の日本において、より一層の重みを持つように感じまます。その部活動や地域スポーツ団体の活動を、物心ともに支えている一つは、われわれ地域のスポーツ店であると思ひます。JSERAの地域スポーツ店が一層輝きを増しますよう努力していきたいと思ひます。

夕刊フジ(平成23年3月4日)に掲載された加部 究(きわむ)氏寄稿「2011年のフットボール」の内容は琴線に触れるものがありました。その要旨は「高校サッカーなど100人近い部員がいるチームも少なくない。1度も公式戦に出られずに卒業し、悔しい思いをする選手も多い。欧州では所属選手が膨らんだ場合、20~25人前後で複数のチームを形成し、それぞれのレベルに応じたリーグに参戦している。一方、韓国では、早くから競争を促し、勝ち残れない者は続けられない仕組みができています。その仕組みの良し悪しは別にして、日本は国際的に見て突出して補欠の多い国である。多くの選手が練

習か練習試合に明け暮れる。しかも、依然として成長期の子供達を傷つける理不尽で非科学的な押し付け指導を続ける学校も目に付く。いくら子供たちのサッカー人口が増えても、現役生活の出口でうんざりさせたのでは、むしろ普及の足かせになる。100人を集めるなら5チームの登録をさせるなど、日本協会は早急な改革に踏み切るべきだ。」である。乱暴な言い方ですがいわゆる『飼い殺し』の現状打開に切り込んだ提言は共感したいところがあります。私も、野球、ソフトボールに関わっていますが、胸に痛みを感じます。この子供たちに、何とかして『ハレの日』を用意してやれないかと思いませんか。たとえば、全国大会予選の登録外メンバーだけを集めた大会を実施するなど如何でしょうか。地域密着のJSERA 組合員として温かい取り組みができないでしょうか。皆様のアイデアをお寄せください。

もう一つは『体』、継続して地域スポーツ店を経営するには安定した利益が必要です。パイの大幅増加が望めない今、適正な利益率を確保することは利に適うと思います。ネット販売を始めとする安売りスパイラルから抜け出すことが大切と思います。全国理事長会議での内容をベースに今後の取り組みの方向性をお示しいたします。

「適正な利益を得るには、適正な価格で販売できればいい。」自明の理であります。ところが「適正な価格で売る」ことが、今日至難の業となってしまっています。法令順守を前提に、JSERA ならではの付加価値が求められると思います。利益率向上に向けて以下の観点から検討に入りたいと思います。

(1) 業界高所から

- ① 業界活性化 (『体育の日活性化』など)
- ② オープン価格化
- ③ ネットの正常化 (違法広告撲滅など)
- ④ その他

(2) 非組合員、大型量販・専門店、異業種に対して

- ① 組合専用商品開発 (卸と組んでPB など)
- ② 商材の占有化 (特価商材の全数確保など)
- ③ 現プロパー商品への付加価値による差別化 (取り扱い説明・保守とのセット、JSERA マークの活用など)
- ④ ネット販売
- ⑤ 組合員ネットワークの活用
- ⑥ その他

(3) 組合員の間で

- ① 理念 (利益率UP) の確認
- ② 会員化による運営
- ③ その他

三層の協調も忘れてならない理念です。卸・メーカーさんとのwin, win の関係こそ業界発展の基礎と考えます。上記の内容を推進するには、特に卸さんとの関係が重要です。①現在3層を通じて『メーカー→卸→小売』の順に流通している商品は、3層の流れで、②現在、『メーカー→小売』の2層の流れで販売されている商品は、2層の流れで、③ライン材等業界の境界商品は是々非々の流れで、という具合に現在の枠組みを大切にします。

どのような手立ても信頼関係あってこそです。『儲』の字は、よく信と者との組み合わせと説明されます。三層、組合員同士、信じ合える者同士が集まってこそ儲けもついてくるのでしょう。

まず一步、組合員同士の信頼関係を築き上げることからトライしたいものです。正直、このことの難しさもまた皆の知ることです。特効薬はありません。唐突かもしれませんが、『相手より¥1高く売る努力』をすることは如何でしょうか? 『価格』よりも『価値』の競い合いなら信頼関係を損なうことはないでしょう。『+¥1の付加価値』を!



JSERA 重森理事長挨拶



JSERA 重森理事長講演

新理事長としての抱負

京都運動具商協同組合
理事長 安井幸夫

私は、昨年8月の京都運動具商協同組合定時総会におきまして理事長に選出されました、安井幸夫です。どうか前理事長の竹内健一、同様ご指導ご鞭撻をいただきますよう宜しくお願いいたします。

理事長就任後、昨年10月広島にてモルテン民秋前社長のお別れ会、昨年10月奈良県JSERA全国大会、昨年11月京都にてJSERA近畿ブロック協議会定時総会、1月大阪にて関西スポーツ業界新年挨拶会、2月東京にて全国理事長会議及びJSEC連絡会議、など京都の理事長として出席させていただき、各県先輩理事長のご指導により、いろいろと勉強させていただき、ようやくなれてまいりました。

さて昨今の国内経済は、急激な円高やデフレなどによる厳しい経済環境のなか、政府与党の内輪もめやネジレ国会などによりまともな経済政策もなく大変きびしい経済状況がしばらく続くと思われれます。しかし、景気が悪いからこそ、組合でなにかメリットのある活動をしていかなければならないと思います。

私は京都運動具商協同組合理事長としての役割として、組合本来の原点に返り、少しでも組合員にメリットのある組合作りに励んでまいりたいと思っております。

*多くの組合員にメリットのある共同購入商品の発掘

*組合オリジナル商品の開発
(近畿ブロックの下で)

*組合員の懇親及び福利厚生、勉強会

以上の3点を重点に組合員の意見を尊重しながらコツコツと頑張ってまいりたいと思っております。今後とも皆様宜しくお願い申し上げます。

新理事長としての抱負

大分県スポーツ用品協同組合
理事長 吉田恒久

先の全国理事長会議の時に新期理事長就任の抱負を記事として掲載するむね宿題を申し受けて参りましたが、私の場合前浅利理事長の時から副理事長を仰せつかっておりましたのであまり実感がありませんでした。それというのも役員改選期の半年も前から突然当方にまいりまして実は理事長を引き受けて下さいませんかと言われてまして、その時国体も全中大会も終わったので組合行事もしばらく無いので無理やり押し切られたようなものでした。そして次の総会会場にて正式に理事長に決まりました。九州ブロックの場合2ヶ月に一度各県の理事長会議が開催されておりますのでその会議にまずは出席することから始まり又ブロックの行事でもありますソフトバレーの大会にと一年がすぎ先日県の組合総会も無事終わりました一息ついているところです。私はもう高齢ですし理事長役は長くするつもりはありません。でも役員が変わるたびに協同組合ですので届け出事項が発生しますがこれも大変だなーとも思います。自分は一期だけの引き受けですよ、という条件で受けましたので後は次期理事長の候補を決め根回しにかかろうと思っております。取り留めの無い文章になってしまい申し訳ありません。ではこのへんで。

理事長を拝命して、早一年

福島県運動具商業組合

理事長 桑原 勇 健

会津地方は雪が解けると春がやってきます

今年は異常なほど雪が降り、温暖化はどこへ行ったやらです

先般、全国理事長会が開催され、諸問題が話し合われました、JSERA 新年度は重森体制、やる気、満々の新理事長、利益率の向上を真っ先に掲げ、後継者が喜んで継げる体制作りを致しましょう、と訴えておられます。

各事業委員会も立派な事業計画を提示し、確実な一歩を踏み出したようです。

福島県運動具商業組合と致しましては、まずは総会の出席率を上げるための努力を致します、組合員が一同に介し、諸問題を話し合うことが大事であると存じます。

幸いにして私は監事職も拝命し、毎回、理事会に出席し情報を頂いており全国の事情もつぶさに報告できる立場にいます。

JSERA 提案のパウダー事業、ショッピングバック販売、身近な事柄を丁寧に説明し組合メリットを強調したいと思います。

大きな大会でもあれば、会員一同が力を合わせ実りある活動もできますがこればかりは順番が優先し、従来の大会は待っているしかありません。

福島県は範囲が広く5地区に分かれます、各地区で組合主催の大会などを開催して盛り上げようかと考えております。

あせらず、会員皆様の意見を拝聴し、出来る所から実行に移して行きたいと思えます

大震災福島県情報

福島県運動具商業協同組合

このたび福島県は、県北・県中・県南・会津・いわき浜通りの皆さん、ほとんどの店が壁やガラスの一部が落ちたり、店内の棚が倒れて商品が沢山散乱しましたが、店舗の倒壊等は無かったようです。気仙沼に有るオノヤスポーツの支店は1階が水に浸かったようですが、人的被害は無かったようです。いわきの遠藤運動具店さんでは津波に家を流された従業員がいたとの事、近くでは壊れた店舗も多数あり、店の開店は来週あたりとのことでした。原子力発電所からは約50キロほど離れているが商店街に人がほとんど見られないようです。今でも水の出ない地区も有ります。いわき浜通り地区が特に被害が大きくこれからが大変だと思います。

原発の状況がどうなるか、先が見えないので困ります。

新たな情報が入りましたら又連絡します。

H23.3.24

JSEC 活動への協力とご理解

日本スポーツイベントサービス推進協議会 (JSEC)

専務理事 藪下孝三

私の前任者は2名でJSEC活動を担任しておりました。前任者は関西在住で俗に言われる在宅勤務でした。開催県組合及び各大会の実行委員、会員メーカーからの問合せ等即座に返答できる担当者が常勤しておりません。事務所に常勤できる人が不可欠とのことで、1998年(平成10年4月1日)JASPO特別事業部のJSEC担当に任命されました。

最初の1998年は神奈川県・四国総体・東北ブロック全中大会を担当しました。あれから13年が経ちました、昨年の2010年千葉国体・沖縄総体・中国ブロック全中大会上を比較してみました。

国体

神奈川県 49,600万円、千葉県 24,300万円
49%

総体

四国 39,000万円、沖縄 42,200万円
108%

全中

東北 13,200万円、中国 19,680万円
149%

です。

国体が50%を割り、総体は順調に推移をし、全中は5割アップしております。各大会とも天候には大いに影響されますが、何事も10年間順調に運ぶものではありません。国民体育大会から参加選手を15%削減することになりました。結果2007年の秋田国体より翌年の大分は売上が1億円減りました。メーカー各位もNESの担当者も少しは売上に影響があると考えておりましたが、販売した残りの記念品の段ボールが山のように積みれ処理、処分に手間と経費が嵩みメーカー、NESは泣いておりました。

総体は順調ですが2008年度より財)全国高等

学校体育連盟が管理する文字、大会マーク、タイトルを使用して記念品を作成、販売すると売上の1%ロイヤリティを支払う契約をしております。

金額は

2008年488万円、2009年456万円、2010年422万円

会員メーカーとNESで負担しております。

全中大会は

JSEC 90万円、JSERA 50万円、NES 20万円で合計160万円

財)日本中学校体育連盟へ毎年協賛しておりますが、本年増額のお願いがきております。3団体と協議をして回答したいと思います。

ここ2~3年ですが国体は開催県実行委員会の地元企業優先の考えが強くなってきております。オフィシャルサプライヤー制度で協賛する企業を募集し、競技会場の優位な場所にテントを配置しております。大会のマスコットマークを付けNESが作成して組合が販売している記念品も地元企業にかなり売上が奪われているのが現状です。今後は大会実行委員会へ開催する組合と協力して是非とも好立地な位置へテントが張られるように頑張らなければなりません。全中大会で競技開催の施設の管理を行政から民間へ委託しているため、場所代等条例で決められている会場があります。

開催県組合がテントを申請するとき事前に把握して頂き、減免の手続きをして頂きたいと思いません。期間中または大会終了後請求がきて、揉め事が発生します。昨年の広島県、山口県の担当者様に大変なご苦勞をおかけし解決できました。できる限り経費を抑えて売店活動を進めて行きたいと思いません、開催県組合、JSERA、JSEC、NESが協力して各大会が大成功に終了するよう行動します。今後ともよろしく願いいたします。

平成 23 年度国体開催地の 現状と今後の方向目標額

山口県スポーツ用品小売協同組合
実行委員長 **杉本光霽**

山口県は、県内を6エリアに分けブロック長を中心に売店運営を図ります。売上予算は千葉国体を参考に2億6千5百万円（障害者大会含む）を見込んでおります。

開催県の情報を参考にし、活動資金の調達・組織図の作成・役割分担等を決め、今年2月には第1回全体会議にて出店申請の説明と各競技の売上予算を決定しました。出店申請書の受付は、各市の国体局によってバラバラですが、2月から6月の間に実施される予定です。

現在JSECから送られてきた日程表を元に責任店の決定と会場地の出店枠に応じたテント数の調整を測っているところです。

6月に会議を開き出店申請の進捗状況をチェックし、8月末には責任店の担当者を集め売店運営についての説明会を開く予定です。

平成 23 年度全中大会開催地 の現状と今後

奈良県運動用具小売商協同組合
会計 **金井啓次**

学販等で皆様忙しく早く理事会を開いて諸問題を話し合いたいと思っています。

中学校の事務局及び実行委員長等に会いに行き挨拶したところです。今後春休み中にテントの設置等の話し合いに行く予定です。

ここ3・4日前の震災で8月の行事とは言えなんとなく頭をかかえるところです。3月末か4月には理事会を開いて行こうと思っています。

目標額は、陸上競技で4000万円、ソフトテニスで1500万円位になると思っています。前回以上の売上額を目指しますが、色々な影響でダウンすると思っています。組合員一丸となって頑張りたいと思います。

平成 23 年度全国総体開催地 の現状と今後の方向・目標額

秋田県スポーツ用品商業協同組合
理事長 **五嶋一夫**

平成19年に秋田国体が何十年ぶりかで開催され、組合員一人一人がベストを尽くし

販売金額・達成感ともに充実した大きなイベントでした。あれから5年また全国より

スポーツマンの若人を迎えることになりました。

国体の反省をまず踏まえて今回のインターハイに向かう覚悟です。

前回の一番の反省は販売・支払いの計画が立てられなかったことです。その後遺症が国体

終了後の追徴税の恐怖でした。

今回はまず計画・実行・笑顔これを指標にしております。

組合員が毎年廃業倒産と少なくなって居ります。23年度は28店での国体開催です。

今回は北東北3県での開催です。東北人特有の引っ込みジアンのため3月現在まで

一度盛岡で3県合同の会議が開催されたのが昨年11月でした。リーダーシップをとる人がいないのです。ところがやるときはやるのが東北人の良いところです。

だから私は心配しておりません。3月の理事会でも開催種目が少ないのでなんとなく寂しい感じがすると言う人も居たぐらいです。

秋田市の総体需要はほとんどありません。これから需要が出てくるか心配しております。

もうひとつ心配な事は、3月11日の東北関東大地震です。岩手会場は大丈夫でしょうか

秋田・青森は大丈夫でしたが岩手の被害が大きいのので、あと4ヵ月での開催に間に合いますか心配しております。

販売目標はNESの掲げた目標通り達成します。

消費生活用製品安全法に基づく重大製品事故の報告義務

製造事業者・輸入業者は、その製造等に係る製品の重大製品事故を知った場合、消費者庁へ10日以内（知った日を含め）に迅速かつ的確に報告してください。（消費生活用製品安全法第35条）

○重大製品事故とは、消費生活用製品（一般消費者の生活の用に供される製品。例：テレビ、こたつ、机、給油器など。法令において対象外とされた物品を除く。）の使用に伴い生じた事故であって、以下の要件に該当するもの。

○重大製品事故に該当するかどうか分からない場合など、消費者庁に迅速にご相談ください。

◆要件1 被害の程度

- ・死亡事故
- ・一酸化炭素中毒事故（軽傷を含む）
- ・30日間以上の治療（投薬期間を含む）を要した事故
- ・火災（消防が火災と認定したもので、発煙・発火程度でも火災として扱われる。）
- ・後遺障害事故

◆要件2

- ①一般消費者の生命又は身体に対する危害が発生した事故
- ②消費生活用製品が滅失し、又は毀損した事故であって、一般消費者の生命又は身体に危害が発生するおそれがあるもの

◆要件3

- 事故の原因にかかわらず対象。原因が不明であっても対象。ただし、「製品欠陥でないことが明らかな事故」は対象外

報告先 消費者庁消費者安全課

〒100-6178

東京都千代田区永田町2-11-1 山王パークタワー

電話番号：03-3507-9201 FAX：03-3507-9290

ホームページ：

http://www.meti.go.jp/product_safety/form/index.html

重大製品自己に該当しない製品事故の報告

製造業者・輸入事業者・小売販売事業者等は、非重大の製品事故を知った場合、NITE（（独）製品評価技術基盤機構）の本部又は支所へ迅速かつ的確に報告してください。（経済産業省通達）

報告先 NITE（本部）

〒540-0008

大阪府中央区大手前4-1-67 大坂合同庁舎2号館別館

電話番号：06-6942-1114 FAX：06-6946-7280

ホームページ：<http://www.nite.go.jp/jiko/index10.html>

製品事故情報の公表促進について

製造事業者・輸入事業者・小売販売事業者は、製品事故に関する情報を収集し、これを消費者へ適切に提供するよう努めてください。（消費生活用製品安全法第34条）

- 「製品安全自主行動計画策定のためのガイドライン」（以下のホームページ）が参考になります。
<http://www.meti.go.jp/press/20070302003/20070302003.html>

問題が生じた場合はまず小売店としてメーカーに相談して下さい。

関東甲信越ブロック会総会を開催

山梨県スポーツ専門店協同組合

理事長 神山利秋

山梨県スポーツ専門店協同組合（組合員 17 名）は、去る 2010 年 9 月 15、16 日の 2 日間にわたって、石和温泉「ホテル慶山」に於て、JSERA 関東甲信越ブロック会総会が盛大に開催され、それを主管させて頂きました。

「甲斐路に語らい、ひとつになろう」のスローガンのもと 1 都 9 県から各県の役員の皆様、メーカー、卸様合せて約 80 名のご出席を頂きました。

総会に於ては JSERA 小関理事長の提案により各県の理事長より現在取組んでいる事業、これから取組みたい事業等を率直に発表してもらい活発な意見交換が行われました。

その後メーカー・卸様も参加して三層懇談会が開催され、「IT 革命時代、スポーツ店はどう生き残るか！」というテーマでスポーツビジネスサポート浪川壽夫先生による講演会が開催されました。

その講演の中でスポーツ業界も確実に景気後退の渦中に入っており、地域スポーツ店は本当の生き残るための経営活動が求められている。大型店の攻勢などもあるが我々スポーツ店が生き残るために競争すべきは競合店ではなく我々の「顧客」である。そのために徹底した顧客志向を貫くことが大切で、まず第一に自店を変革（チェンジ！）する。それは経営方針の変革、販売方法の変革、仕入、品揃えの変革、店舗の変革などさまざまな角度からこれからの自店のあり方を問い直す。

第 2 には経営構造を変えること、売上げが上らない、利益がとれないという体質では未来はありえない。売上げを上げるためには、顧客にお店に

来ていただくためにはどんなことが必要か、など 5 年先 10 年先を見すえて生き残り策を考えていく必要性を説かれた。

又、講演の最後に現在の卸問屋さんは各メーカーの代理店としての機能を果しており、これからは真の意味で「小売店の為の代理店」であって欲しいと云われたことばが大変印象に残りました。

講演会終了後に懇親会が盛大に行われ、関水会長、ご来賓のあいさつの後、石和温泉トップのコンパニオンと一升ビンの地ワインで大いに盛り上げた次第です。

翌日は塩山カントリー倶楽部で記念コンペが開催され、賞品の他に巨峰の土産が付いて皆よろこんで帰られました。

お陰さまで関水会長はじめ関ブロの役員の皆様のご協力ご支援によりまして無事に平成 22 年度の関東甲信越ブロック会総会が終了することが出来ました。関係各位にご協力に感謝を申し上げて、関ブロの報告とさせていただきます。



熱心に聞き入る参加者の皆さん

第9回 JSERA 四国ブロック大会を終わって

高知県スポーツ用品小売商協同組合

理事長 美馬 義一

2010年11月17日に、第9回JSERA四国ブロック高知大会が、高知海辺の果樹園にて開催されました。

参加者は愛媛県9名、香川県12名、徳島県7名、高知県15名、メーカー卸13社、中央会1名の57名で、来賓にJSERA重森仁理事長と高知県商工会議所会頭であり、高知県体育協会会長の西山昌男氏をお招きしました。

重森理事長は前日、九州ブロック大会に出席され、当日車で駆けつけて下さいました。誠にありがとうございました。理事長からは指針として、「利益の上がる（儲かる）商売」を重点目標にし、組合員が組合員でよかったと思える組合を創っていくことのあいさつをいただきました。

西山会長からは、「体協と我々スポーツ店との関係はユニフォーム、グッズ等の提供だけに終わらず、各競技団体の選手育成、指導普及、そして各団体の組織運営にも協力していただき、切っても切れない間柄である。又、スポーツは世の中を明るくしてくれる。世の中のためにも、皆さんにはがんばっていただきたい」とのお言葉を頂戴しました。



高知県体育協会西山会長来賓挨拶

総会終了後、研修会が行われました。

「スポーツを安心してできる場を提供する為の事業」を重森理事長が講演。目的は「スポーツを安心してできる場」を提供することを課題にし、ユーザーの必要に応じた正しいスポーツ用具等の販売を行うと共に、使用方法及び点検、管理についても一定の知識、技能を習得できるよう関係機関と連携し、研究、講演を実施する。組合員が研究、講演に参加することで、経営上のメリットを創出すると共に、地域におけるスポーツ安全対策のオピニオンリーダーとしての自覚と誇りを持ち、自信を持ってスポーツ用品店を運営する切り札のひとつとする。「利益の上がる商売」へつながる話でありました。講演後は各県組合員より活発な質疑応答が行われ、四国ブロックでの講習会の開催を希望する声が上がっておりました。

続いて「高知県の子供の体力向上支援事業について」を高知県教育委員会スポーツ健康教育課刈谷課長が講演。

小中学生を対象とした「全国体力テスト」において最下位であるという現実がある高知県では、知事の指示により、対策を練り、子供たちの生活

リズム、習慣を規則正しくするプログラム（例えば、朝食をきちんと摂る）を作成した。そのひとつが「体力アップ75プログラム」であり、目的は体力向上、運動の仕方、運動習慣の定着で、小、中、高校及び教育委員会にDVDを配布し、研鑽を重ね、実践した。その結果、全国38位～42位と順位を上げた。この様に「地域活動の充実」

→「就学前教育の充実」→「生活習慣の改善」→「学校教育の充実」を行い、データ分析をし、体力向上に向けた事業計画として、高知県は動いているとの講演でした。



高知県教育委員会刈谷課長講演

その後、高知県組合青年部によるパネルディスカッション「がんばれ高知の子供達」が行われました。

まず「子供達の体力低下の原因は何か」そして「その原因を踏まえて、スポーツ小売店として何ができるか」がディスカッションされ、「安心して運動できる場所の提供」「体育家庭教師の派遣」「オリジナル競技の開発」「通信オリンピック的な競技（学校別クラスマッチ）」等の提案が出ました。そうする事により、我々組合員が地域における情報発信の基点となり、地域に愛され、地域になくてはならないスポーツ店と存在していくことができるであろう事が確認されました。

子供に目を向けたのは、あるいは少子化の時代に逆行するかもしれませんが、子供達がスポーツを大好きになれば、その子供達が大人になっても我々のユーザーであり続ける可能性もあり、業界を活性化するひとつのヒントでもあるような気がするの、私だけだったでしょうか。

活発な研修会が終了し、温泉に入り、皆さんお待ちかねの懇親会が始まり、地ビール、地酒、そしてカツオのたたきの実演、地元の料理でもてなしましたが、いかがだったでしょうか。



四国ブロック大会高知県理事長挨拶

学校教育について

三重県スポーツ用品協同組合

理事長 角前博道

すこし前に学校の制度の改革として、学校5日制、統合学習・絶対評価等々行われて来たが、現在の教育の現状について、常々最も基本的なことが欠落していると思っています。学校の基本的な使命は何か、一口に言うならば、学問を教授・指導することである。平たく言えば、勉強をさせることと言える。学校の前身である寺子屋は何を目的としたかそのことをよく考えれば、至極わかりやすいのではないのでしょうか。

最近学校の5日制の実施に伴い、日本の子供達の学力低下を懸念する声が多い、大学生となっても、分数の計算が出来ない、中学校レベルの漢字の読み書きもおぼつかない、などと言われている。では巷に言う「学力」とはどの様に把握されているのでしょうか。親が心配する学力とは、何んなのだろうか、その主なるものは、知識中心のものと言っても言い過ぎではないと思われる。この際、大学卒の学力問題はちょっと置いておくとして、世の親達の多くが心配する学力低下は、良い学校に入れたいから、という懸念が最大の関心事であると思われる。最近では、一流といわれる大学を卒業して来ても、学歴優先、年功序列賃金、終身雇用と云った社会情勢ではなくなってきているのに、現状認識の上に立った国の教育施策が、将来的な構想を明確に示してないから、多数の親達が従来の学校に対する期待と認識を改めることが出来ないでいる。最も大切な、「学力とは何か」の議論がもっとなされても良いのではないかと。学力の定義については様々な見解があるだろうが、とりあえず次の様に考えられないだろうか、ある学者の見解であります、紹介させて頂くと、A－知識・理解・技能⇒テスト向きで見える学力（教育の「教」の部分）B－思考力・判断力・表現力⇒生きていくために大切な学力（教育の「育」の部分）、C－意欲、関心、態度⇒AやBの根底にある学力。このABCをよく考えて見るとAの部分は、そのほとんどが理屈なく教師が教えなければならない分野。Bの分野は、主として問題場面

に直面させて、指導や助言することが大きなウエイトを占めるもの、多種多様な思考、判断、表現力を養うことで、一点二点を視野に入れて評価、評定するものでもなく大まかな評価・評定ではないか、Cの分野は教師や指導者が如可に適切な教材となる場面に立ち合わせさせてAの学力やBの学力でもって立ち向かわせるかが、この分野の学力向上のよりどころとなると思われると云っている。

学校では、様々な課題・問題が持ち込まれ、その大半を受けて立たされているから、本来の学問を教授、指導すると云う役割が見えなくなって来ているとしか思えない。つまり教えること、指導、助言によって育てることがあいまいになって来ている。親の眞の役割は、基本的な生活習慣をしっかりと身につけさせる。又我が子の個性を把握して励ますことだと思われる。学校の役割はAの分野をしっかりと教えること。そして、BやCの分野を指導、助言して育てること、そして親と連携して、個々の子供の個性を把握し、その発達に努めることと思われまます。

学校は先程のABCの3つの領域にわたる基礎的、基本的な学力を習得させることが何より重要でないのでしょうか。だから、能力別学習も、その為の手段と考える必要がある様に思う。総合学習や体験学習の準備やその後始末に追われて、基礎的、基本的な学習を教えることがおろそかになってしまっただけでは、本末転倒といわざるを得ない。有効な学力は、生きていなければならぬと思うし、生きた学力とは未体験や新たな場面に出会っても、今までの学んだ学力を基にして、新しい学力となる様に、切り開いていくことが出来るものではないのではないのでしょうか。単に多くの事柄を記憶しているだけで、そこから発展していかないものでは死んだ学力であると云わざるを得ないと思います。

次に続く

日時 平成23年2月15日(火) 11:00～12:30

※昼食 11:30～※

場所 ホテルサンルート有明 1階会議室

I. 開会(進行) 蓮田専務理事

II. 理事長挨拶 重森 仁理事長

III. 出席者及び配布資料の確認

理事 重森 仁、武宮 兼敏、角前 博道
 関水 正章、蓮田 茂樹、矢野幸太郎
 大坪 征一、宍戸 幸市、橋本 隆一
 水島 隆司、大林 哲夫、美馬 義一
 笹淵 信嘉、桑原 勇健

委任理事 関口 孝夫

委任監事 安西 昭雄

IV. 議事録作成人の指名

重森理事長より蓮田専務理事を指名

<報告事項>

1. 理事長報告

【1月19日】 東京組合主催新年懇親会出席。

【1月21日】 武宮副理事長 ご令室様葬儀出席

【2月3日】 大阪インテックスにて 正常化のための懇談会出席。
 大阪卸役員と懇談会。

【2月8日】 ヨネックスとPB商品の打ち合わせ。

【2月14日】 JSERA 事務局員の面接

【2月15・16日】 東京スポーツショー ビックサイトにて「スポーツにおける安心の場を提供するための講習会」のパネル展示。

2. 委員長報告

<活性化委員会> 代理：蓮田専務理事

・「スポーツにおける安心の場を提供するための講習会」について

8月3・4日高知で実施予定。

<共生委員会> 武宮委員長

・2月3日に大阪インテックスにて第13回正常化対策会議を開催。

その議事録は理事会次第の中に添付。

<広報委員会> 角前委員長

・55号のJSERAレポートを発行。今後も原稿のご協力をお願いしたい。

・ホームページのフラッシュ画面をリニューアルで検討中(見積もり入手済)

事業内容のページが平成9年度のままの為一度全部削除し、リニューアル予定。

矢野理事：ホームページの最初の画面にラインパウダーやショッピングバックのアイコンを追加してはどうか。また少々硬いイメージがあるのでもっと違う柔らかいイメージのものにしてはどうか。

・環境問題については今年のテーマを検討中(昨年はエコシールの配布)

<事業委員会>

関水委員長

・全国理事長会議にてエコラインチラシの配布
 北海道～近畿：20部ずつ

上記以外：10部ずつ

<総務委員会>

蓮田専務理事

・事務局員の面接を行い、4名の中から決定。

「小沼 清美さん」浅草在住。自転車で15～20分程。

<協議事項>

1. オリジナルショッピングバックについて(事業)

・通常のJSERAショッピングバックと同じ素材・大きさでデザインだけを自由にできる。
 オリジナルショッピングバックの販売価格について意見を伺いたい。

今までのショッピングバックの価格は変えず、オリジナルは変更案③を適用⇒協議事項を審議事項へ変えて、決定とする。

同様に完全オリジナル(デザイン・素材・大きさを自由選択)についても販売価格(目安)を決定。

※オリジナル・完全オリジナル共に各組合への手数料支払いはなし。

<審議事項>

1. 全国理事長会議での担当について(総務)

・活性化委員会の報告については蓮田専務理事が対応。

・各ブロック報告者の確認。

・資料の確認。

1. ペイオフの決定(会計)

・資料を基に説明 ⇒決定。

1. JSERA エコラインのエコマークについて

今までのエコマークの扱いが出来なくなったが交渉の結果、積水とグリーンテクノ21でJSERAエコラインの分まで取得してくれるようになった。

1. ガイアロジンの取扱について

ガイアロジンはメーカーより小売店へ直接販売の為、代理店からクレームが出ている。どのように対処すべきかをメーカー(グリーンテクノ21)と協議すること。

1. その他

・来年度全国理事長会議について

来年2月1日大阪開催にて進めることで一致。JSEC等の付帯会議については一旦検討するが、大阪の正常化会議をその際行う。

・安全ガラスについて(関水事業委員長)
 サンプルの案内と資料を基に説明。

前向きに取り組む方向で継続決定。

・ボールを贈ろうについて栃木県より追加報告が有。資料の差し替え依頼。

閉会の辞

蓮田専務理事

12:47 すべて議事を終了し閉会した。

平成22年度 第18回全国理事長会議

日 時 平成23年2月15日(火) 13:30～16:50
 場 所 ホテルサンルート有明 2階 「花明」
 出席者数 理事長本人出席 42名
 理事長代理出席 5名
 顧 問 2名
 オブザーバー出席 4名
 理事・監事出席 4名
 合計 57名出席

理事長会議出席者

顧 問 辻本 昌孝(愛知)、小関 和夫(山形)
 JSERA 蓮田 茂樹(石川)、矢野幸太郎(兵庫)
 水島 隆司(大阪)、笹渕 信嘉(福岡)
 理 事 長 村住 俊幸(北海道)、福士 大二(青森)
 佐藤 佳明(岩手)、大坪 征一(宮城)
 五嶋 一夫(秋田)、渡部 政雄(山形)
 桑原 勇健(福島)、笹谷 忠(茨城)
 穴戸 幸市(栃木)、鈴木 敏郎(千葉)
 関水 正章(神奈川)、伊藤 章(新潟)
 大工原章介(長野)、木村 達郎(富山)
 橋本 隆一(石川)、竹原 和彦(福井)
 中田 敏彦(静岡)、土赤 光宏(愛知)
 角前 博道(三重)、澤田 基朗(岐阜)
 重森 仁(滋賀)、安井 幸夫(京都)
 岸田 昌雄(大阪)、田村 滋(兵庫)
 有家 輝明(和歌山)、尾坂 真人(鳥取)
 伊藤 禮嗣(島根)、山下日出夫(岡山)
 渡邊 健介(広島)、大林 哲夫(山口)
 篠原 正知(香川)、笹倉 泰治(徳島)
 石田 治(愛媛)、美馬 義一(高知)
 武宮 兼敏(福岡)、中島 紘一(佐賀)
 松原 究(長崎)、田原春 勇(熊本)
 吉田 恒久(大分)、岩満 一臣(宮崎)
 丸山 修(鹿児島)、大嶺 侑(沖縄)
 代理出席 原田 和美(群馬)、小柳 隆(埼玉)
 新井 健治(東京)、田辺 裕人(山梨)
 辻川 準一(奈良)

オブザーバー出席

松山 健一(宮城)、堀 英男(静岡)
 宗田 千耕(京都)、稲福 孝(沖縄)

<開会> 進 行：蓮田専務理事
 <理事長挨拶> 重森理事長
 <委員会報告>
 1. 活性化委員会 関口副理事長
 (代理：蓮田専務理事)

1. 共生委員会
 1. 広報委員会
 1. 事業委員会
 1. 総務委員会
 1. 会計

武宮副理事長
 角前副理事長
 関水副理事長
 蓮田専務理事
 矢野理事

<新理事長紹介>

村住 俊幸 理事長(北海道)
 渡部 政雄 理事長(山形県)
 桑原 勇健 理事長(福島県)
 笹谷 忠 理事長(茨城県)
 土赤 光宏 理事長(愛知県)
 安井 幸夫 理事長(京都府)
 吉田 恒久 理事長(大分県)

<各ブロック報告>

1. 北海道・東北ブロック 大坪会長
 1. 関東・甲信越ブロック 田辺副理事長
 1. 中部ブロック 澤田会長
 1. 近畿ブロック 宗田事務局長
 1. 中国ブロック 大林会長
 1. 四国ブロック 美馬会長
 1. 九州ブロック 松原理事長

<その他>

閉会の辞 貫井副理事長
 17:00 すべて議事を終了し閉会した。

JSERA

第18回全国理事長会議(研修会)

日 時 平成23年2月15日(火) 14:40～16:50
 場 所 ホテルサンルート有明 2階 「花明」

<進行役> 武宮 共生委員長

1. 利益率向上への取り組みについての方針重森理事長
 1. アンケート報告蓮田総務委員長
 1. “正常化への挑戦”
 (株)タマス代表取締役社長 山田 俊策 様
 休 憩
 1. 質疑応答
 1. 閉会関水副理事長
 1. 閉会 関水副理事長

若き経営者の他界一考察

(株)アベスポーツ

代表取締役 阿部 貴行

平成 22 年 11 月末日、関東北部に位置する栃木県足利市はこの時機、関東名物、空っ風の吹く季節だが夏の猛暑の影響か今だ穏やかな日和を見せている。ちかじか仲間とプレーするゴルフを思い、いましがたまでいたメーカーとの懇談で緊張の緩んだ身体を長椅子にもたれかけ、愛用のタバコに火を点けようとした時、今まで味わったことのない胸の異常に周囲を見渡した。

妻のあい子、長男貴行、皆自分の仕事に追われ動いている。迷惑をかけてはと思いつつ。

痛みに耐えかね声にならない声を発し椅子に倒れこんだ。

父の様子が見えぬ模様、急ぎよ救急車を手配、病院では救急蘇生を行ったがむなしく時間が過ぎるばかりだ、・・・我々の願いも届かず旅立ってしまいました。

享年 66 歳、短距離ランナーのような、人生でありました。(本人はさほど早い足とは思いませんが・・・) 病名、心不全。

葬儀も過ぎ、お客様メーカー問屋に挨拶を済ませ休む暇なく過ぎて父の偉大さを思うとき、今、何かを残しておかなければと考えた矢先、JSERA レポートの話をいただき、何かお伝えできればと考え、微力ながら筆を走らせることとなりました。

父捷也が 24 歳、母あい子が 20 歳の昭和 44 年に父の実家の軒先からアベスポーツは生まれました。

足利市内に十軒近くあったスポーツ店の最後発であったと聞いております。学生時代に青春を賭けたバレーボール、修行時代に打ち込んだスキーを軸に、私が生まれた昭和 46 年当時はこの時期の創業者が皆そうであったように、父が外商を行い、母が夜中までマーク付けを行っていました。当時の写真を見ると、目つきも鋭く、会社の成長を第一義に猪突猛進型の新社長でありました。

昭和 51 年、手狭になった実家から市内の幹線道路沿いに 1F40 坪・2F30 坪の総合店を出店します。このころは私は小学校に入ったばかりで、店の 3F の八畳二間に家族 4 人で住み、夕食は毎日当時の従業員さんと取っていました。空前のスキーブームに沸き、深夜まで取り付けの音が聞こえ、冬休み・春休みのかき入れ時は妹と一緒に母の実家かスキー場で過ごしました。このころ父は祖父母を相次いで亡くし、自社だけでなく仕入先様、ご同業の方との親交を深めたと思います。

昭和 60 年、足利市は大型店の出店が相次ぎ、父も一世一代の決断をします。

多額の借金をして、アベスポーツ南店(現 アベスポーツ) 140 坪の当時としては大型店を出店させます。当時中学 2 年だった私はほとんど父と顔を合わせる事が無いほどでした。

後年のこの時のことを振り返り、『熟睡できずに夜中に何度も飛び起き、シャワーを浴びたような汗をかいた。』とっていました。

平成 4 年、市内の大型店としてのぎを削る中、父と二人で関西に出掛けます。私の修行先である(株)スポーツ館ミツハシへの挨拶のためです。後にも先にも二人の旅行はこの 1 回きりでした。新幹線の中で詳細は忘れましたが、『大型店や専門店とも伍していけるような強いスポーツ店になろう』と話したことを今思い出しました。この年にアベスポーツは 1F200 坪、2F180 坪の今の形に全面改装しました。

平成 10 年、スポーツ館ミツハシの修行を終え、アベスポーツに戻った私は 12 年間父と一緒に仕事をします。折しも冬物の商売は斜陽する中、春物(アスレ)の確立が急務となり、毎年 20% ずつ減っていく冬物をカバーするというゴールの見えない追いかけっこでした。私も 30 歳を超え、父との衝突も日常化していきます。そんな中、浪川氏(現 SBS 橋本塾主宰)を顧問に迎え、創業以来の大変革を行っていきます。本店の閉店・部門担当制によるアスレの強化・社員教育、そして財務体質の強化です。

平成 22 年、ここ数年は営業面一切を私に任せ、見事なくらい後方支援に徹してきた父が言いました。『やっと、やっと、銀行との約束の 5 ヶ年計画を計画通りに終え、社員にボーナスを出せるようになった。俺も少し貰うかな』過去 5 年間給与を受け取らず、ただただアベスポーツの再生を願ってやまなかったことが分かりました。亡くなる前の数ヶ月間は JSERA の全国大会も含め、様々な会合や催しに出席させていただいていました。今考えると、虫の知らせがあったのかもしれない。

父の戒名をいただきました。一道院継徳捷光居士、お付き合いの深いご住職に『吾が道は一を以て之れ貫く』という故事があり、父は自分の選んだ生き方をひとすじに歩んだ意志の強き人でした。というお言葉をいただきました。それは刀剣のような鋼の強さではなく、父が愛用していたシャフト R のゴルフクラブのようなしなやかで自然体の強さを想像させます。アベスポーツもしなやかで自然体でありながらも父の遺志を芯とするそんな会社でありたいと思い、その想いを全うすることで微力ではありますが業界の発展にも寄与したいと考えております。

浅学非才ではございますが、意志を受け継ぐ者として、社業発展のために全力を尽くし、また皆様のご期待に添えます様努力いたす所存でございます。なにとぞ、父同様に格別のご指導ご鞭撻をいただきますよう、宜しくお願いいたします。

東日本大地震

社団法人日本スポーツ用品工業協会
スポーツ用品公正取引協議会

専務理事 **宮地 弘孝**

まず初めに、東日本大地震の被災者の皆様に対して、心からお悔やみ申し上げますとともに、一日も早いご復興をお祈りいたします。

さて、かく言う私も帰宅難民でありました。当協会が所在します三東ビルは、昭和46年に建築されたビルであり、しかも9階に居りますので、揺れ方は尋常なものではありませんでした。しかし、後で聞くと、この頃のビルのコンクリートには混ぜる砂の質が良く、現在のそれとは比較にならないぐらい強度がある上に、梁や床にもしっかりと鉄筋がとっており、所謂、新耐震基準を上回る強度を持ったビルである事を知った次第です。

被災されて、避難場所で過ごされている映像が海外で流れています。その反応は、被災された方々の秩序ある暮らしぶりに感嘆の声と称賛の声が上がっております。そして、日本の救援隊が海外で活躍して、人命の尊さに対する真摯な態度が、100を超す海外からの緊急援助の申し込みに繋がっていると思います。

そしてそれを、日本の教育の伝統の成果と紹介しております。このビルを建てた建築主と施工業者の心意気にも通じたものを感じました。本物こそが最終的に全てに通じて生き残るすべである事と感じております。

一方で、TV報道では、記者が現地に入り中継しておりますが、もっと、被災者のためになる報道はないかと考えてしまいます。一般放送はNHKに任せて、各局は協定して、避難場所其々の被災者のお顔をお伝えするようにすれば、すこしでも安否確認のお役にたてるのではないかと考えるのは私だけでしょうか。

スポーツを通じた結束もこの本物に通じるものがあると思います。今後、私たちのスポーツ業界にも解決すべき課題が多くあると思いますが、それは結束する事によって乗り越えて行けると信じて居ります。

そして、当協会は皆様のお役にたつ協会としてありたいと思います。

重ねて、この災害でご不幸に遭われた方のご冥福をお祈りするとともに、お悔やみを申し上げます。

東北関東 大地震発生!!

栃木県スポーツ用品販売協同組合

理事長 **宍戸 幸市**

平成23年3月11日金曜日午後2時44分、3月とはいえやはり肌寒い、明日中学の卒業式を楽しみにしている親子が高校で使うグローブを注文して帰った所だ。

注文書を整理し始めた矢先、一瞬足元がグラリと揺れ始め棚に積んである商品が乱れ飛び始めた。何が起きているのか初めは訳が分からず、お客様をはじめ店員まで店の前の公園に逃げ込んだ。振り返ると店舗がズキズキと音を鳴らして揺れている。揺れる中、火の元が心配だ、揺れる最中2階の台所の点検、隣のご主人と近所の安否を確認、そこで、やっと震源地はどこか気になり始めた。急ぎテレビに目をやった。そこには現実とは思えない光景が映し出されていた。夕方、大学時代の友人より携帯に連絡が入った。

妻は食料の買い出しに行ったがどこも閉まっているとか、ガソリンスタンドは長蛇の列、大変な参事、震源地よりかなり離れているのにこの状況、宮城、岩手、福島、茨城、千葉、青森の状況が分かればわかるほど仲間が気になる。とはいえ何もできない自分がいた。

ふと何年か前の神戸震災が脳裏を駆け巡った。

今、我々は何をすべきか、どう対処すべきか、JSERA 全員一丸となって取り組む時ではないかと考える。一夜明けてその悲惨な状況を各テレビ局が映し出している。

やれることなら今から飛んで行って何か手伝うことはないか、シャベルを持って、泥を払い瓦礫を払いどけたい衝動にかられている。

そんな矢先、蓮田専務理事より連絡が入り、JSERA レポートに原稿を載せ、JSERA で何ができるのか投げかけてほしいとの要請あり、一気に書き始めた。

全国の皆様、今我々はどう対処すべきなのかお教えてください。皆様の知恵と勇気を今掘り起し災害にあった仲間を救い出そうではありませんか。

重森理事長をトップにJSERAの団結力が問われるときと考えます。どんなことでも構いません、事務局までご連絡ください。

第9回 JSERA 四国ブロック大会を終わって

高知県スポーツ

用品小売商協同組合理事長

美馬義一

2010年11月17日に、第9回 JSERA 四国ブロック高知大会が、高知海辺の果樹園にて開催されました。

参加者は愛媛県9名、香川県12名、徳島県7名、高知県15名、メーカー卸13社、中央会1名の57名で、来賓に JSERA 重森仁理事長と高知県商工会議所会頭であり、高知県体育協会会長の西山昌男氏をお招きしました。

重森理事長は前日、九州ブロック大会に出席され、当日車で駆けつけて下さいました。

誠にありがとうございました。

理事長からは指針として、「利益の上がる（儲かる）商売」を重点目標にし、組合員が組合員でよかったと思える組合を創っていこうとのあいさつをいただきました。

西山会長からは、「体協と我々スポーツ店との関係はユニフォーム、グッズ等の提供だけに終わらず、各競技団体の選手育成、指導普及、そして各団体の組織運営にも協力していただき、切っても切れない間柄である。又、スポーツは世の中を明るくしてくれる。世の中のためにも、皆さんにはがんばっていただきたい」とのお言葉を頂戴しました。

総会終了後、研修会が行われました。

「スポーツを安心してできる場を提供する為の事業」を重森理事長が講演。

目的は「スポーツを安心してできる場」を提供することを課題にし、ユーザーの必要に応じた正しいスポーツ用具等の販売を行うと共に、使用方法及び点検、管理についても一定の知識、技能を習得できるよう関係機関と連携し、研究、講演を実施する。

組合員が研究、講演に参加することで、経営上のメリットを創出すると共に、地域におけるスポーツ安全対策のオピニオンリーダーとしての自覚と誇りを持ち、自信を持ってスポーツ用品店を経営する切り札のひとつとする。

「利益の上がる商売」へつながる話でありました。講

演後は各県組合員より活発な質疑応答が行われ、四国ブロックでの講習会の開催を希望する声が上がっておりまして。

続いて「高知県の子供の体力向上支援事業について」を高知県教育委員会スポーツ健康教育課刈谷課長が講演。

小中学生を対象とした「全国体力テスト」において最下位であるという現実がある高知県では、知事の指示により。対策を練り、子供たちの生活リズム、習慣を規則正しくするプログラム（例えば、朝食をきちんと摂る）を作成した。そのひとつが「体力アップ75プログラム」であり、目的は体力向上、運動の仕方、運動習慣の定着で、小、中、高校及び教育委員会にDVDを配布し、研鑽を重ね、実践した。その結果、全国38位～42位と順位を上げた。この様に「地域活動の充実」→「就学前教育の充実」→「生活習慣の改善」→「学校教育の充実」を行い、データ分析をし、体力向上に向けた事業計画として、高知県は動いているとの講演でした。

その後、高知県組合青年部によるパネルディスカッション「がんばれ高知の子供達」が行われました。まず「子供達の体力低下の原因は何か」そして「その原因を踏まえて、スポーツ小売店として何ができるか」がディスカッションされ、「安心して運動できる場所の提供」「体育家庭教師の派遣」「オリジナル競技の開発」「通信オリンピック的な競技（学校別クラスマッチ）」等の提案が出ました。そうする事により、我々組合員が地域における情報発信の基点となり、地域に愛され、地域になくはならないスポーツ店と存在していくことができるであろう事が確認されました。

子供に目を向けたのは、あるいは少子化の時代に逆行するかもしれませんが、子供達がスポーツを大好きになれば、その子供達が大人になっても我々のユーザーであり続ける可能性もあり、業界を活性化するひとつのヒントでもあるような気がするのは、私だけだったでしょうか。

活発な研修会が終了し、温泉に入り、皆さんお待ちかねの懇親会が始まり、地ビール、地酒、そしてカツオのたたきの実演、地元の料理でおもてなしさせていただきましたが、いかがだったでしょうか。

関東甲信越ブロック会総会を開催
山梨県スポーツ専門店協同組合
理事長 神山利秋

山梨県スポーツ専門店協同組合(組合員 17 名)は、去る 2010 年 9 月 15、16 日の 2 日間にわたって、石和温泉「ホテル慶山」に於て、JSERA 関東甲信越ブロック会総会が盛大に開催され、それを主管させて頂きました。

「甲斐路に語らい、ひとつになろう」のスローガンのもと 1 都 9 県から各県の役員の皆様、メーカー、卸様合せて約 80 名のご出席を頂きました。

総会に於ては JSERA 小関理事長の提案により各県の理事長より現在取組んでいる事業、これから取組みたい事業等を率直に発表してもらい活発な意見交換が行われました。

その後メーカー・卸様も参加して三層懇談会が開催され、「IT 革命時代、スポーツ店はどう生き残るか!」というテーマでスポーツビジネスサポート浪川壽夫先生による講演会が開催されました。

その講演の中でスポーツ業界も確実に景気後退の渦中に入っており、地域スポーツ店は本当の生き残るための経営活動が求められている。大型店の攻勢などもあるが我々スポーツ店が生き残るために競争すべきは競合店ではなく我々の「顧客」である。そのために徹底した顧客志向を貫くことが大切で、まず第一に自店を変革(チェンジ!)する。それは経営方針の変革、販売方法の変革、仕入、品揃えの変革、店舗の変革などさまざまな角度からこれからの自店のあり方を問い直す。

第 2 には経営構造を変えること、売上げが上らない、利益がとれないという体質では未来はありえない。売上げを上げるためには、顧客にお店に来ていただくためにはどんなことが必要か、など 5 年先 10 年先を見すえて生き残り策を考えていく必要性を説かれた。

又、講演の最後に現在の卸問屋さんは各メーカーの代理店としての機能を果しており、これからは真の意味で「小売店の為の代理店」であって欲しいと云われたことばが大変印象に残りました。

講演会終了後に懇親会が盛大に行われ、関水会長、ご来賓のあいさつの後、石和温泉トップのコンパニオンと一升ビンの地ワインで大いに盛り上った次第です。

翌日は塩山カントリー倶楽部で記念コンペが開催され、賞品の他に巨法の土産が付いて皆はよろこんで帰られました。

お陰さまで関水会長はじめ関ブロの役員の皆様の

ご協力ご支援によりまして無事に平成 22 年度の関東甲信越ブロック会総会が終了することが出来ました。関係各位にご協力に感謝を申し上げて、関ブロの報告とさせていただきます。